

取扱説明書

CONTAX TVS III

この取扱説明書は、Recycled Paper を使用しています。

お買い上げいただきありがとうございます。
このカメラは『持つ喜び、使う喜び、すばらしい写真を手にする喜び』の基本思想のもと、オートフォーカス／マニュアルフォーカスが切り替え可能なフォーカスシステム、絞り優先オート／プログラムオートおよび沈胴タイプのレンズを搭載した35mmレンズシャッター式カメラです。

ご使用になる前に、必ずこの取扱説明書をよくお読みいただき、正しい取り扱いでお使いください。

目次

基本的な撮影

撮影のテクニック

安全に関する表示について

この取扱説明書では、このカメラを安全に使用していただくために、次のような表示をしています。内容をよくお読みいただき、正しく使用してください。

⚠注意	このマークは、製品を正しくお使いいただけなかった場合に、製品の使用者等が傷害を負う危険および物的損害の発生が想定されることを示します。

⚠警告	このマークは、製品を正しくお使いいただけなかった場合に、製品の使用者等が死亡または重傷を負う可能性が想定されることを示します。

取り扱い上の注意

〈カメラ使用上の注意〉

●このカメラは防水機構になっていませんので、雨天や水中では使用できません。万一水にぬれてしまったときは早めに当社サービスステーションにお持ちいただき、点検を受けてください。

●撮影レンズ、測距窓、測光窓などを指紋などで汚すとカメラの精度に影響を及ぼしますので充分注意してください。もし汚れた場合はむやみに拭かず、セーム皮や市販の眼鏡拭き用紙などで軽く拭く程度にしてください。また、ゴミやホコリはブロアーで吹き飛ばすかレンズ刷毛で払うようにしてください。

●本体の汚れを落とすときは、柔らかな布などで拭いてください。ベンジンやシンナーなどの有機溶剤は本体破損の原因になりますので、絶対に使用しないでください。

●レンズの鏡胴（繰り出し部分）には無理な力を加えないでください。故障の原因になります。

●カメラを落下させたときは、外観に異常がなくても、内部が破損していたり、ずれたりしている場合があります。必ず当社サービスステーションにお持ちいただき、点検を受けてください。

⚠注意

●海岸やほこりの多い所での撮影後は、カメラをよく清掃してください。潮風は金属を腐食し電子回路の断線・ショートの原因となり、発煙・発火を起こすこともあります。また砂ぼこりは内部機構の作動不良を起こします。

●寒いところから急に暖かい室内に持ち込むと、レンズがくもることがあります。しばらくするとくもりは消えますが、繰り返し行うと内部に水滴が生じます。水滴は電子回路の断線・ショートの原因となり、発煙・発火を起こすこともあります。急激な温度変化はできるだけ避けてください。

●直接日光の当たる場所に放置しないでください。太陽光が近くの物に結像すると破損や火災の原因になります。フロントカバーを閉じる、または直射日光を避けて保管してください。

●カメラは精密な電子機器です。電子回路の断線による発煙・発火や機構の破損の原因となる落下や衝撃は避けてください。

⚠注意

●海外旅行や結婚式など大切な撮影のときは、前もって作動の確認、またはテスト撮影をしてから使用してください。また、予備の電池を携行してください。

⚠警告

●カメラや電池が熱くなる、煙が出る、焦げ臭いなどの異常を感じたときは、速やかに電池を取り出してください。火災や火傷の原因となります。（電池を取り出す際、火傷には十分ご注意ください。）

●水などが直接かかる場所や湿気の多い場所、または濡れた手で本機を使用しないでください。感電や電子回路のショート、発熱、発煙、発火、腐食による故障の原因となります。（雨天、降雪中、海岸、水辺などでの使用は特に注意してください）。

●引火性ガスの発生するような場所では使用しないでください。発火事故の原因になります。

●本機を分解・改造しないでください。高電圧がかかり感電する恐れがあります。

⚠警告	●本機内部には高電圧回路が組み込まれています。落下などにより破損したとき、内部には絶対に手を触れないでください。感電する危険性があります。 ●ストロボ撮影時、ストロボを人の目（とくに乳幼児）に近づけて、撮影しないでください。目の近くでストロボを発光すると視力障害を起こす危険性があります。 ●本機を幼児・子供の手の届く範囲に放置しないでください。また、幼児・子供の近くで使用するときは、細心の注意を払い、不用意に本機から離れないでください。幼児・子供には安全警告・注意の内容が理解できませんし、加えて以下のような事故の恐れがあります。 ・本機を落としたり、倒したりしてケガをする。 ・誤ってストラップを首に巻き付け窒息を起こす。 ・モーターが動き、スプールに指が巻き込まれる。

⚠警告	・レンズ収納時、フィルムガイドの内側に指を挟む。 ・フロントカバーを閉じるとき指を挟む。 ●カメラで太陽や強い光源を直接見ないでください。視力障害を起こす危険性があります。 ●移動しながらの撮影はおやめください。特にファインダーを覗きながら移動すると事故の原因になります。 ●撮影時は被写体に気をとられすぎずに周囲の状況にも充分注意をはらってください。 ●ストラップが首に巻き付くと危険です。小さなお子様がストラップを首に掛けないようにご注意ください。

〈カメラの保管について〉

●暑い場所（夏の海辺、直射日光下の車内など）に長時間おいておくと、フィルムや電池の性能を低下させ、カメラにも悪影響を及ぼしますので放置しないでください。

●カメラを長期間使わないときは電池を取り出しておいてください。電池の液漏れなどによる事故を防ぎます。

⚠注意	●カメラは湿気やほこりのある場所や防虫剤のあるタンス、実験室のように薬品を扱うところを避け、風通しのよいところに保管してください。電子回路の断線、ショートの原因となり、発煙・発火を起こすこともあります。

〈カメラが作動しなくなったとき〉

このカメラは、外部の強力な静電気等に対して、極めてまれにカメラが作動しなくなることがあります。このような場合は、カメラ電源をOFFにして一度電池を取り出します。カメラ電源をＯＮ－ＯＦＦし、表示パネルの表示が消えた後再度入れ直してから、ご使用ください。また日付・時刻をセットし直してください。

〈電池取り扱い上のご注意〉

- 電池は一般に、低温になるにしたがって一時的に性能が低下します。寒冷地での使用の前後はカメラを防寒具や衣服の内側に入れるなどして保温してください。なお低温のため性能の低下した電池は、常温に戻ると回復します。
- 電池の＋－極が汗や油などで汚れていると、接触不良をおこす原因になります。乾布でよく拭いてから使用してください。
- 長期の旅行などには、予備の電池を用意してください。
- 電池の＋－を間違えて入れるとカメラは作動しません。

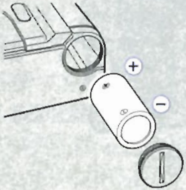
⚠注意	●金属製のピンセットのような導電性のあるもので電極に触れないでください。電池の消耗を早めるだけでなく、ショートして危険です。

⚠警告	●電池を廃棄する場合は、接点にテープを貼るなど絶縁してください。廃棄後他の金属と接触すると、破裂、発火の原因となります。

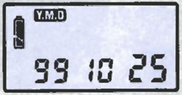
⚠警告	●次のようなことは絶対にしないでください。電池が破裂し火災、けがや周囲を汚損する原因となります。 ①このカメラで指定されている電池以外は、使用しないでください。 ②電池の極性（＋と－）を逆に入れないでください。 ③電池を火の中に入れたり、充電ショート、分解、加熱は絶対にしないでください。 ④CR123AまたはDL123A（3Ｖリチウム電池）は充電禁止です。絶対に充電しないでください。 ●電池は幼児の手の届かないところに置いてください。万一電池を飲み込んだ場合、電池が壊れて電池の液で胃、腸などが損傷する恐れがありますので、直ちに医師と相談してください。

撮影手順の早わかり

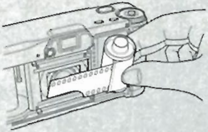
1、電池を入れます。
(P12)



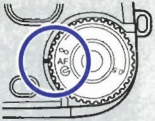
2、日付・時刻を合わせます。(P21)



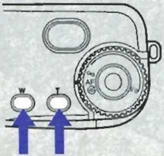
3、フィルムを入れます。(P24)



4、メインスイッチを“AF”にします。
(P28)



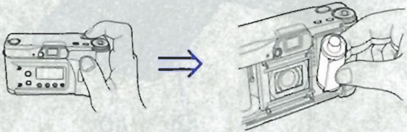
5、被写体の大きさを決めます。(P30)



6、撮影します。(P31)

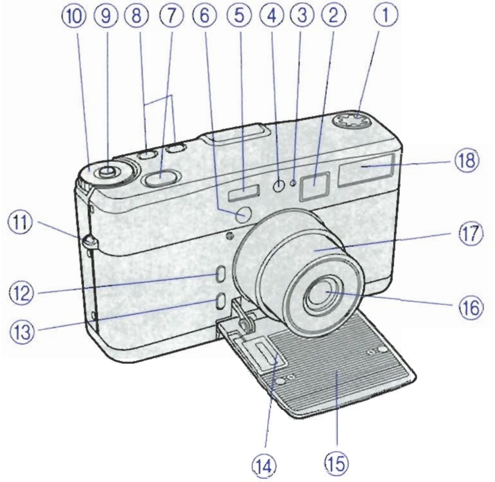


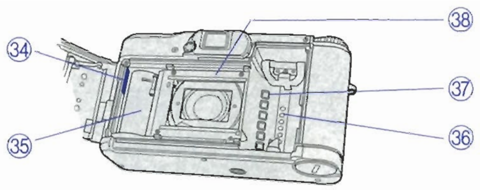
7、フィルムを巻き戻し後、取りだします。(P33)

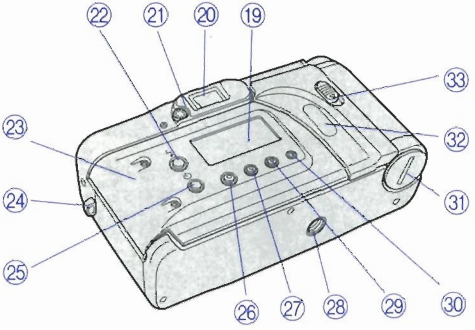


撮影が終了したら

各部の名称

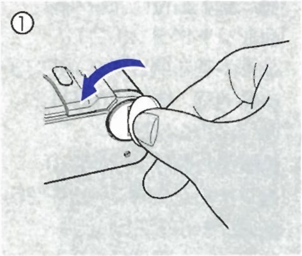


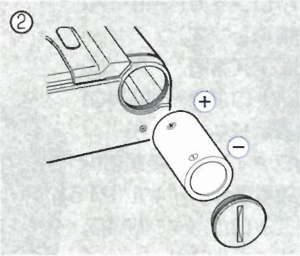


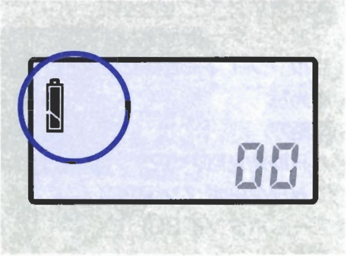


①露出補正ダイヤル(P38)
②ファインダー(P16)
③セルフタイマーＬＥＤ(P46)
④測光窓
⑤測距窓
⑥ＡＦ補助光窓(P32)
⑦シャッターボタン(P20)
⑧ズームボタン(P30)
⑨ダイヤルロック
解除ボタン(P48)
⑩メインスイッチ兼
フォーカスダイヤル(P15)
⑪吊り環(P58)
⑫絞りボタンＡ(P36)
⑬絞りボタンＢ(P36)
⑭絞り表示LCD(P36)
⑮フロントカバー(P14)
⑯撮影レンズ
⑰レンズ鏡胴
⑱ストロボ発光部(P40)
⑲表示パネル(P18)
⑳ファインダー接眼部(P16)
㉑視度調整ダイヤル(P15)
㉒ストロボボタン(P40)
㉓裏ぶた(P24)
㉔吊り環(P58)
㉕セルフタイマーボタン(P46)
㉖デートボタン(P21)
㉗セレクトボタン(P21)
㉘三脚取り付け穴(P46)
㉙セットボタン(P21)
㉚途中巻き戻しボタン(P33)
㉛電池室／電池ぶた(P12)
㉜フィルム確認窓
㉝裏ぶた開放ノブ(P24)
㉞フィルム先端マーク(P25)
㉟スプール(P25)
㊱フィルム室(P24)
㊲ＤＸ接点(P24)
㊳フィルムガイド(P25)

1、電池の入れかた







①電池ぶたをコインなどを利用し、矢印方向に回して開けます。

②電池室内の表示に従って電池を正しい向きで入れ、ふたを元通り閉めます。

電池は3V リチウム電池（CR123AまたはDL123A）1個を使用します。

〈バッテリーチェック〉

電池を入れた後、カメラを一度作動させてください。表示パネルに“ ”（電池残量表示）が表示されます。

電池残量表示



電池の容量は充分です。	新しい電池を準備してください。	電池交換してください。	電池容量がありません。

〈電池の交換時期〉

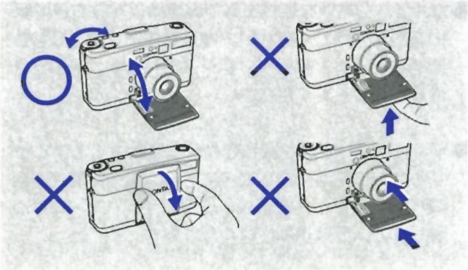
表示パネルに" "マークが点滅したら、電池交換の時期です。カメラ電源を"OFF"にしてから新しい電池と交換してください。

●カメラから電池を取り出したときは、すみやかに新しい電池を入れてください。電池を抜いて約３０秒放置すると日付・時刻がリセットされます。そのときは設定し直してください。

●" "マークが点滅してからも撮影はできますが、すみやかに電池交換してください。電池容量が使用限界を超えると、表示パネルの" "マークが点滅し、カメラは作動しなくなります。

●電池によってはその性質上、装着時一時的に電圧が低下し、" "マークが点滅することがあります。新品電池装着後すぐに" "マークが点滅した場合は、一度メインスイッチを"OFF"にし再度ONにしてください。この操作を行って" "マークが点灯したらそのままお使いいただけます。

2、フロントカバーについて



〈フロントカバー開閉時のご注意〉

●フロントカバーの開閉は必ずメインスイッチの"⊖"⇔"AF"で行ってください。
フロントカバーを手で無理に開けたり、手で押して閉めようとすると故障や破損の原因になります。

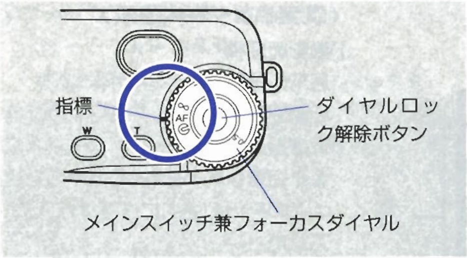
●フロントカバー先端部やレンズ鏡胴先端部は、極端に強い力を加えないようにしてください。故障や破損の原因になります。

〈フロントカバー／レンズ鏡胴作動中のご注意〉

●フロントカバーやレンズ鏡胴が動いているときは、無理に動きを止めるなどしないでください。

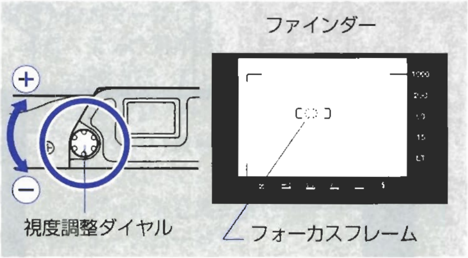
●誤ってレンズ先端に力を加えたり、カメラケースに入った状態でメインスイッチを"⊖"⇒"AF"にすると、約1～6秒カタカタと音がしますが、内部メカを保護する機構が働いているためで故障ではありません。この際、フロントカバーが固定されない状態になったときは次の方法で復帰させてください。
①メインスイッチを一旦"⊖"にします。
②しばらくして再びメインスイッチを"AF"にしてください。
＊1回で復帰しないときは、①、②を数回繰り返してください。保護機構が解除され元の正常な状態に戻ります。

3、メインスイッチ兼フォーカスダイヤルについて



メインスイッチ兼フォーカスダイヤルはカメラ電源のON/OFFとマニュアルフォーカス撮影(P48)に使用します。"⊜"→"AF"にするとカメラ電源が"ON"になり全自動撮影モード(P28)になります。また、ダイヤルロック解除ボタンを押しながら"∞～0.5"にするとマニュアルフォーカス撮影モードになります。

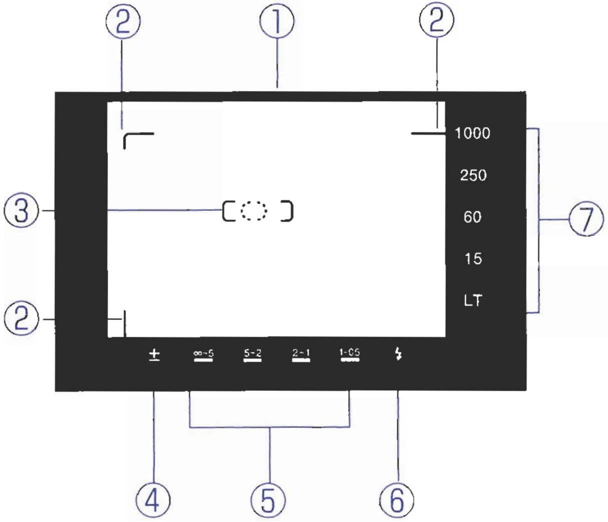
4、視度調整のしかた



このカメラは視度調整機構が内蔵されています。視度調整ダイヤルを回して、ファインダー内フォーカスフレームがはっきり見えるように調整してください。調整範囲は+2～−3.5D(ディオプター)です。

5、ファインダー内表示

（ファインダー表示の図は説明のための全情報を表示したもので、実際の表示とは異なります。）



〈ファインダー内表示〉

①撮影範囲枠
通常の撮影では、この枠内で見える範囲が写ります。（P31）

②近接撮影範囲枠
撮影距離が約1.0m〜0.5mのときはこの枠の範囲内に被写体を入れてください。

③フォーカスフレーム
ピント合わせを行う範囲の目安です。(P31,53)

④露出補正マーク
露出補正を設定しているとき点灯します。（P38）

⑤フォーカス表示（兼・距離表示）

〈オートフォーカス時〉

測距結果に応じて点灯または点滅します。

表示	∞-5 、5-2 2-1 、1-0.5 のいずれかが 点灯	1-0.5 点滅	∞-5 と 1-0.5 が点滅
内容	表示の距離範囲内でピントが合っています	被写体までの距離が近すぎます。0.5m以上離れてください。	ピント合わせができません

〈マニュアルフォーカス時〉

設定された値に応じて ∞-5 、5-2 、2-1
1-0.5 のいずれかが点灯します。

⑥ストロボマーク

点灯：ストロボが発光します。

遅い点滅(２回／秒):ストロボ充電中。

速い点滅(４回／秒):ストロボ撮影範囲外警告です。（被写体が近すぎる場合は露出オーバーに、遠すぎる場合は露出アンダーになります。）

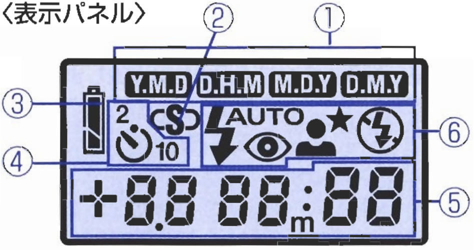
⑦シャッタースピード

シャッタースピード表示の1000は1/1000秒を、15は1/15秒を示し、２個表示されているときは、その間の値を示します。またLTの点灯は1/10秒～16秒を示し、点滅するときは露出連動範囲外になる表示で露出アンダーになります。また1000の点滅は露出連動範囲外になる表示で露出オーバーになります。

6、表示パネル及び絞り表示LCD

ファインダー内表示は次の操作をしたときに表示され、8秒間表示したあと自動的に消える省電設計になっています。
1)メインスイッチを“AF”にしたとき。
2)メインスイッチ“AF”の状態で、シャッターボタン半押しで表示されます。また表示中にボタン類を操作したときは、表示はさらに8秒間延長されます。

〈表示パネル〉



①デートマーク(P21)
Y.M.D(年.月.日)、D.H.M(日.時.分)、M.D.Y(月.日.年)、D.M.Y(日.月.年)

②スポットフォーカス表示
フォーカス範囲がスポットフォーカスのとき表示します。(P50,53)

③電池残量表示(P13)

（表示パネル及び絞り表示ＬＣＤの図は説明のため全情報を表示したもので、実際の表示とは異なります。）

④**セルフタイマー表示**（１０秒または２秒）（P46）

⑤**フィルムカウンター／日付・時刻／露出補正値／マニュアルフォーカス設定距離／セルフタイマー・カウンター／カスタムファンクションの各表示**

⑥**ストロボモードマーク**（P40）

自動発光モード“ ”

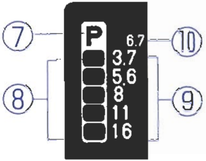
赤目軽減自動発光モード“ ”

発光禁止モード“ ”

強制発光モード“ ”

夜景ポートレートモード“ ”

〈絞り表示ＬＣＤ〉



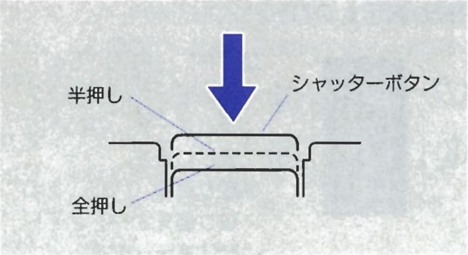
⑦ **“P”**（P29、54）
露出モードが“プログラムオート”のときに表示します。

⑧**絞り目盛**（P36、54）
絞り優先オートセット時に表示します。

⑨**絞り値**（P36）
絞り値表示は30mm（ワイド）時の数値です。60mm（テレ）時の実絞り値はP37の表のようになります。

⑩ **“6.7”**
30mm（ワイド）時絞り値F3.7のときの60mm（テレ）時の実絞り値

7、シャッターボタンの押しかた



シャッターボタンは2段階押せるようになっています。1段目まで押すことを"半押し"といい、半押しからさらに2段目まで押すことを"全押し"といいます。シャッターボタンはそれぞれの位置で次のような働きをします。

半押し

ピント合わせと露出の測定（測光）を行います。

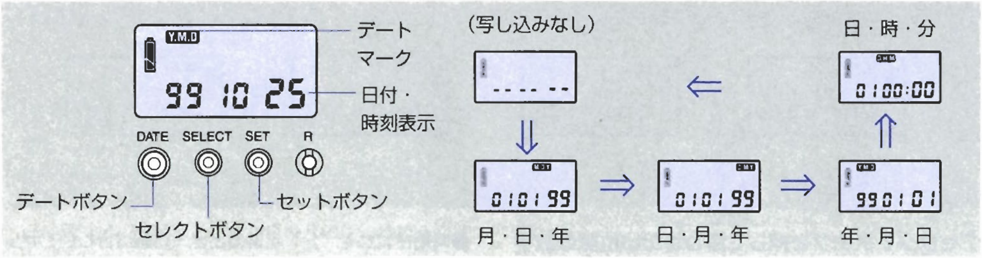
全押し

レンズがピント位置まで繰り出され、シャッターが切れて撮影が行われます。撮影後、フィルムを巻き上げます。

＊シャッターボタンはカメラぶれを起こさないように人差し指の腹で軽く押してください。またカメラの構えかた（P26）も必ずお読みください。

●半押し時、レンズがピント位置まで繰り出されるように変更することができます。(P50 参照)

8、日付・時刻の合わせかたと写し込み



〈日付・時刻の合わせかた〉

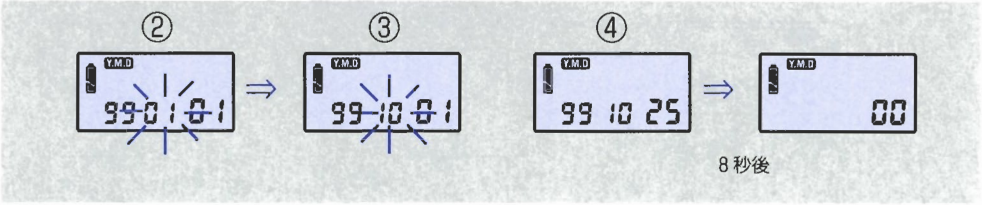
電池を入れた後(P12)デートボタンを押すと、表示パネルに"−−−−−−"が表示されます。



①デートボタンを押して日付または時刻表示を出します。

デートボタンを押すごとに、−−−−−−(写し込みなし)⇒月・日・年 ⇒日・月・年⇒ 年・月・日、⇒日・時・分に表示が切り替わります。

●日付・時刻表示に合わせてデートマークも表示されます。



②セレクトボタンを押して合わせたい位置の数字を点滅させます。

③セットボタンを押して正しい数字にします。

④日付・時刻の両方を合わせ終わったら、数字の点滅が消えるまでセレクトボタンを押します。

●時刻合わせで "分" 点滅のとき、時報に合わせてセレクトボタンを押すと "0 0" 秒からスタートし、正確な時刻合わせができます。
●合わせた日付・時刻表示は約8秒後に消灯しフィルムカウンターに切り替わりデートマーク表示のみになります。
●点滅表示は約6 0秒放置するとデートマークとカウンター表示に切り替わり、点滅表示値の数値で設定されます。日付・時刻の修正は、表示の点滅中に行ってください。

〈日付・時刻の写し込み〉

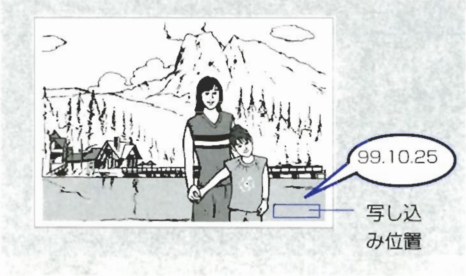
このカメラは撮影時に、日付や時刻を自動的に写し込むことができます。

①デートボタンを押して写し込むモードを選びます。

デートボタンを押すごとに、－－－－－－－（写し込みなし）⇒　月・日・年⇒日・月・年⇒年・月・日、⇒日・時・分に表示が切り替わりますので、希望する表示を出してください。

●表示した日付・時刻表示は約８秒後に消灯しフィルムカウンターに切り替わりデートマーク表示のみになります。写し込む内容を確認したいときはデートボタンを押してください。

②シャッターボタンを押して撮影すると、日付や時刻が写し込まれます。

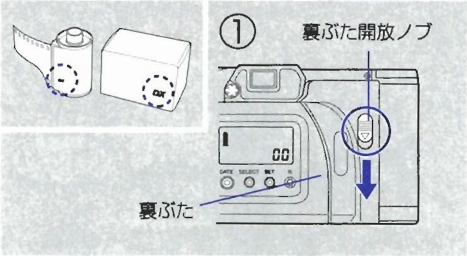


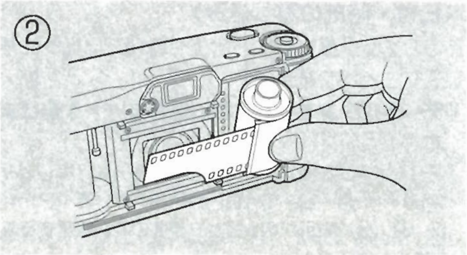
●写し込みは写真の右下隅になります。写し込み位置の背景が白や黄色のように明るいときは、数字が読みにくくなることがあります。

●日付や時刻を写し込みたくないときは、------にして撮影します。

規定枚数を越えて撮影された最終コマには、このカメラの機構上正しく写し込まれない場合があります。

9、フィルムの入れかた





フィルムは、ＤＸマークの付いたフィルムをご使用ください。フィルム感度が自動的にカメラにセットします。

●ＤＸマークのないフィルムはＩＳＯ１００にセットされます。

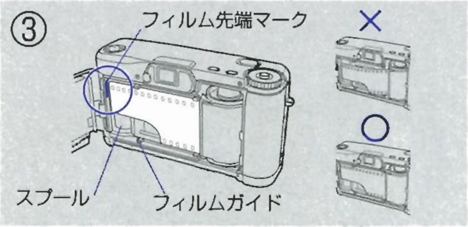
①裏ぶた開放ノブを矢印の方向に下げ、裏ぶたを開けます。

●フィルムを入れるときは、カメラの内側に入っている「保護シート」は必ずとりはずしてください。

●フィルムの出し入れは、直射日光を避けて行ってください。

②図のようにフィルムを斜め上から差し込むようにして入れます。

●ＤＸ接点はむやみに触れたり、汚したりしないように注意してください。

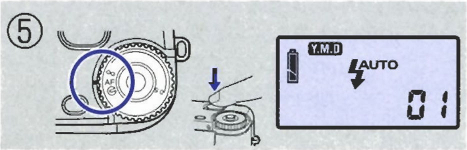


③フィルムの先端をオレンジ色の“I”マークまで引き出しそのままスプールの上に置きます。

このとき図のようにフィルムが浮き上がらないようにしてください。

●フィルムの先が長く出ている場合は、長さを調節してください。

④裏ぶたを確実に閉めます。



⑤メインスイッチを“AF”（カメラ電源ON）にし、シャッターボタンを押します。

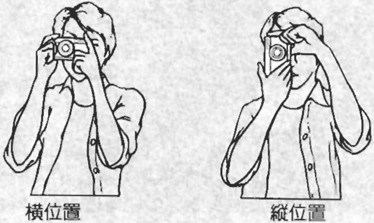
フィルムが自動的に空送りされ、フィルムカウンターが“01”になって停止します。

メインスイッチが“⊖”（カメラ電源OFF）の状態では、シャッターボタンを押しても空送りしません。

●フィルムカウンターが“00”で点滅した場合は、フィルムが正しく送られていません。裏ぶたを開け、もう一度入れ直してください。

１０、カメラの構えかた

①脇をしめてカメラを安定させる。
②写す瞬間に呼吸を止める。
③手にあまり力を入れず、静かに
　シャッターボタンを押す。



ピントが合った美しい写真を撮るためには、カメラをしっかり構えることが大切です。ピントの悪い写真の多くはカメラぶれが原因です。
カメラは横位置の他、状況により縦位置で構えますが、いずれも自分にあった姿勢を研究してください。建物や木立などを利用して体やカメラを支えることも効果的な方法です。

●撮影レンズ、測距窓、測光窓、ＡＦ補助光窓、ストロボ発光部等に指やストラップがかからないようにご注意ください。
●縦位置のときはストロボ発光部が上になるようにします。

１１、写真の基礎知識

〈露出〉

フィルムに光をあてること。
写真の撮影を行うときは、絞り開口量とシャッターの開閉時間により、フィルムにあてる光の量を調節します。

〈シャッタースピード〉

カメラ本体に組み込まれているシャッターは、フィルムにあたる光の量を、シャッターが開いている時間の長さで調節します。このシャッターを開いている時間の長さをシャッタースピードと言います。

〈絞り値〉

レンズに組み込まれている絞りは、レンズを通りフィルムにあたる光の量を、開口部を拡げたり縮めたりして調節します。この開口部の大きさを絞り値と言います。
絞り値が大きくなるほど開口部は小さくなります。

〈フィルム感度〉（ISO 値）

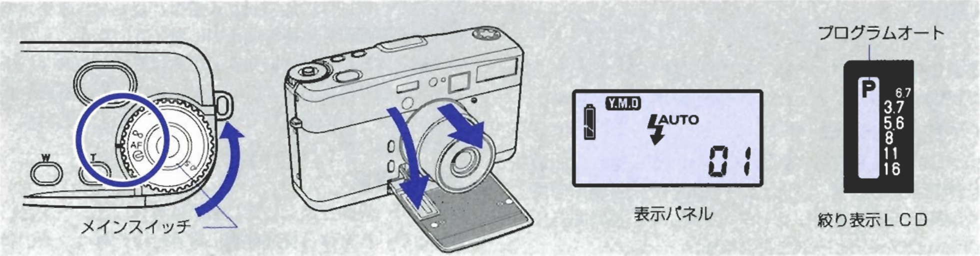
フィルム感度は、どの程度の光までフィルムが感応するかをISO（国際標準化機構）で定められた数値で表しています。
ISO 値が小さいほど光に対する感度が低くなります。きめ細かく高画質な写真を撮るのに適しています。
ISO 値が大きいほど光に対する感度は高くなります。少ない光の量で感応しますので、暗いところでの撮影や高速シャッターでの撮影ができます。しかし、きめは粗く階調再現性は悪くなります。

〈被写界深度〉

レンズの一般的性質として、ある被写体にピントを合わせたとき、被写体自身が鮮明に写るだけでなく、その前後にも鮮明に写る範囲があります。この範囲を被写界深度といいます。同じレンズでの被写界深度は次のように変化します。

①絞りを絞り込むほど被写界深度が深く（広く）、開放にするほど浅く（狭く）なります。
②被写体との距離が遠いほど被写界深度が深く、近いほど浅くなります。
③ピントを合わせた被写体の後方に深く、前方に浅くなります。

1、メインスイッチを“ＡＦ”にします



メインスイッチを回して“⊖”→“ＡＦ”にします。

カメラの電源がONになり、自動的にフロントカバーが開き、レンズが繰り出されて撮影ができる状態になります。この時カメラは次のような全自動撮影にセットされます。

プログラムオート"P"
あらかじめプログラムされている絞りとシャッタースピードの組み合わせの中から、被写体の明るさに適した組み合わせをカメラが自動的に選びます。スナップ撮影など気軽に撮影することができます。

オートフォーカス撮影モード
シャッターボタン半押しでカメラが自動的ピント合わせを行います。

自動発光モード"⚡AUTO"
暗いところでの撮影や逆光のときストロボが自動的に発光します。シャッターボタン半押し時、ファインダー内"⚡"の点灯は、ストロボが発光するお知らせです。

- ●フォーカスダイヤルを"AF"→"⊖"にするとレンズが収納されてフロントカバーが閉じ、カメラの電源がＯＦＦになります。
- ●カメラをすぐに使わないときは、不用意にシャッターが切れるのを防ぐためにカメラの電源をＯＦＦにしてください。
- ●カメラ電源をＯＮにしたときに最初にセットされるストロボモードを変更することができます。（P45）
- ●ピント位置を手動でセットすることもできます。（マニュアルフォーカス撮影：P48）

2、被写体の大きさを決めます（ズーミング）



被写体をファインダーで見ながら、ズームボタンを押して大きさを決めます。（ズーミング）

ズームボタン "W"

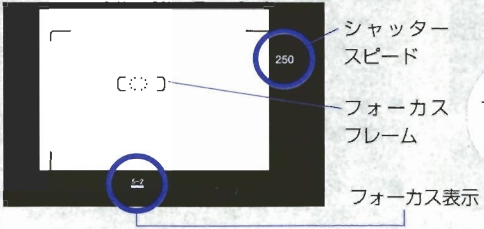
風景など広い範囲を撮影するときに使用します。

ズームボタン "T"

写したいものを大きく撮影するときに使用します。

3、撮影します

①



②



①ピントを合わせたい被写体にフォーカスフレームを向け、シャッターボタンを半押しします。
ピント合わせが行われるとファインダー内の"フォーカス表示"が被写体との距離に応じて点灯します。またその時のシャッタースピードが表示されます。

② "フォーカス表示"が点灯していることを確認してから、そのまま静かにシャッターボタンを全押しして撮影します。

このカメラは外部パッシブ方式のマルチフォーカスを搭載していますので、被写体がフォーカスフレームから多少はずれていてもピント合わせができます。(P53)

●シャッターボタン半押し時、“⚡”マークが点灯するときはストロボが発光します。

●シャッターボタン半押し時、フォーカス表示の“1～0.5”が点滅しているときは被写体との距離が近すぎますのでシャッターが切れません。0.5m以上の距離で撮影してください。

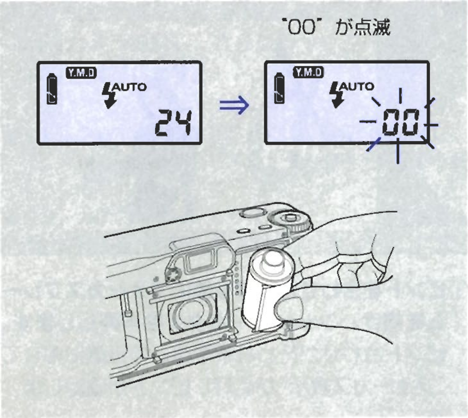
●被写体が暗くてオートフォーカスの精度が低下するときは、AF補助光窓から赤外線を発光して被写体を照射し、オートフォーカスの精度を高める機構になっています。
AF補助光の有効距離は約5mです。

●ピント合わせができないときは、フォーカス表示の“∞～5”と“1～0.5”が点滅し、シャッターが切れません。等距離にある別の被写体でフォーカスロック(P34)して撮影してください。

●ファインダー内シャッタースピードが“1000”で点滅したときは露出連動範囲外になる表示で、露出オーバーになります。

●“LT”が点滅するときは露出連動範囲外になる表示で、露出アンダーになります。

4、フィルムの取りだし



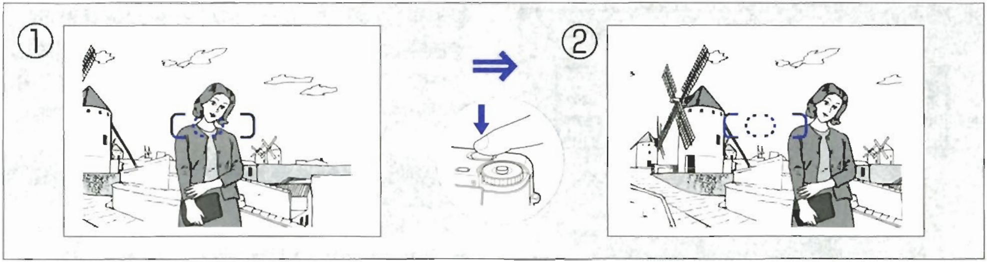
フィルムを全部撮影し終えると自動的に巻き戻しが始まります。

巻き戻し中はフィルムカウンターが減算表示し、巻き戻しが終了すると、モーターが停止しカウンターの "00" 表示が点滅します。巻き戻し終了後、裏ぶたを開けてフィルムを取り出してください。

巻き戻し終了するまで裏ぶたは絶対に開けないでください。

●一度裏ぶたを開けるまで、カメラは作動しません。
●フィルムを途中で巻き戻すときは途中巻き戻しボタン "R" をショルダーストラップ付属のストラップアジャスターの先端または先の細いもので押してください。
●取り出したフィルムは早めに現像に出しましょう。

1、フォーカスロック



オートフォーカス撮影のとき、シャッターボタンを半押しすると、その時のピントが固定されます。(フォーカスロック)
構図によって被写体がフォーカスフレームから大きくはずれるときは、フォーカスロックを利用して撮影してください。

①**ピントを合わせたい被写体にフォーカスフレームを向け、シャッターボタンを半押しします。**
ピント合わせが行われ被写体との距離に応じて"フォーカス表示"が点灯しピントが固定します。

●ピントと同時に露出も固定されます。(AEロック)

②シャッターボタンを半押ししたまま写したい構図にカメラを戻し、さらにシャッターボタンを押して撮影します。

- シャッターボタンを半押ししている間フォーカスロックは継続していますので、カメラの向きを変えてもピントは変わりません。
- フォーカスロックはシャッターボタンから指を離すと解除されます。

〈誤測距および測距不能になりやすい被写体〉

次のような被写体はピントが合いにくいのでフォーカスロックを利用して、等距離にある別の被写体に一度ピントを合わせて撮影しましょう。

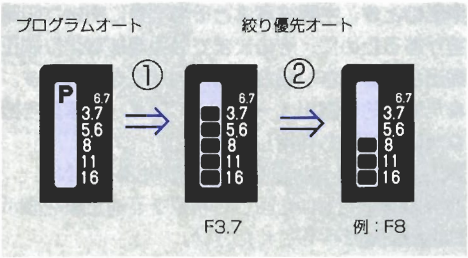
- 低コントラストの被写体。
- 繰り返し同じパターンのもの
- 暗い被写体。
- 水平線など横線だけの被写体。
- 非常に明るい被写体や光沢のある被写体。
- フォーカスフレームやその周辺に、強い光源がある場合、および太陽光など強い光源があり画面内に入る場合。
- フォーカスフレーム内に極度に距離の違う被写体が共存する場合。
- 高速で移動する被写体。

2、絞り優先オート撮影



レンズの一般的な性質として、ある被写体にピントを合わせたとき、被写体自身が鮮明に写るだけでなく、その前後にも鮮明に写る範囲（被写界深度といいます。P27,49参照）があります。
絞りを絞り込むほど鮮明に写る範囲が広くなり、開放にするほど狭くなります。
この性質を利用して、被写体も背景も鮮明に写したり、あるいは被写体のみ鮮明に背景はぼかして写すことができます。作画意図に合わせて絞り値をセットしてください。

絞り優先オート撮影は、あらかじめ絞りをセットすると、被写体の明るさに応じてシャッタースピードを自動的にコントロールします。



①絞りボタンAを押すと“P”が消え“絞り目盛”が表示され、絞り優先オート撮影モードになります。

②ボタンAまたはBを押すごとに“絞り目盛”位置が次のように変わります。希望の絞り値に合わせてください。

ボタンA ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒

P　3.7　5.6　8　11　16

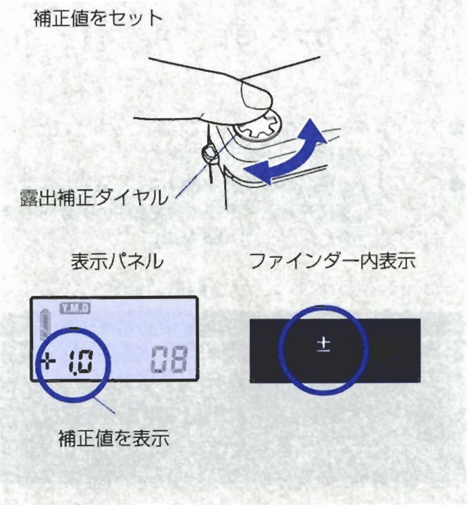
ボタンB ← ← ← ← ←

●ファインダーには絞りに応じて自動セットされたシャッタースピードが表示されます。

●ズームすると実際の絞り値は次のように変わります。また、テレ側にするとストロボ撮影範囲が短くなりますのでご注意ください。(P44参照)

30mm(ワイド)時		60mm(テレ)時
F 3.7	⇔	F 6.7
F 5.6	⇔	F10.3
F 8	⇔	F14.6
F11	⇔	F20.7
F16	⇔	F26.8

3、露出補正



撮影のとき、主要被写体とその背景に極端な明暗差があるために、そのままでは主要被写体に適正露出が得られない場合に露出の補正を行います。また意図的に露出オーバー、アンダーの写真を撮りたいときにも利用します。

露出補正を行うときは、カメラ電源をＯＮにし、露出補正ダイヤルを回して希望する補正値を表示パネルにセットしてください。

補正値は＋２～－２までの範囲内で１／３ＥＶごとにセットすることができます。また、ファインダー内には“±”マークが点灯します。

- 補正値を1／2EVごとにセットすることもできます。(P51 参照)
- 撮影終了後は必ず露出補正なし（補正表示が消えます。）に戻してください。



補正なし

＋補正

逆光などのときは･･･
“＋0.3”～“＋2”の範囲で補正します。

逆光や明るい空、海をバックにした人物、または窓辺の人物などのように明るい背景が撮影画面に占める割合が大きい場合、人物は露出アンダーになり、シルエットのように暗くなります。このようなときは露出を、＋0.3～＋2の範囲で補正して、露出を多く与えます。



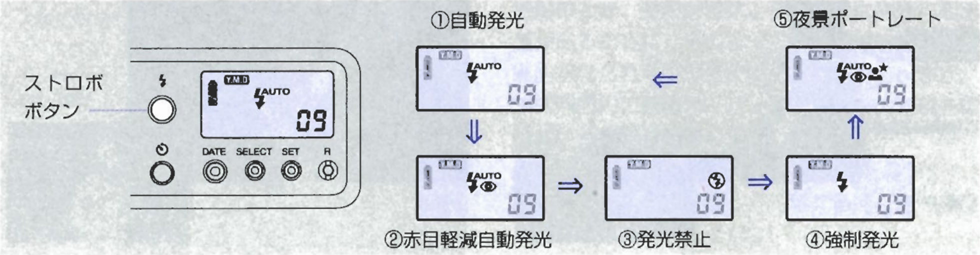
補正なし

－補正

暗い背景などのときは･･･
“－0.3”～“－2”の範囲で補正します。

スポットライトに照らし出された人物などのように、暗い背景が撮影画面に占める割合が大きい場合、人物は露出オーバーになり白っぽくなります。このようなときは露出を、－0.3～－2の範囲で補正して、露出を少なくして撮影します。

4、ストロボ撮影



写したいものや撮影場所に応じて、ストロボを発光させたり、発光を止めたりすることができます。カメラ電源ON時、ストロボボタンを押すごとに次の順に切り替わり、表示パネルに表示されます。希望するモードにして撮影してください。
①**自動発光モード**（カメラの電源をONにしたとき、まずこのモードになります。）→②**赤目軽減自動発光モード** →③**発光禁止モード** →④**強制発光モード** →⑤**夜景ポートレートモード**

●カメラの電源をONにしたときに最初にセットされるモードを、"自動発光" 以外のモードにセットすることもできます。詳しくはP45をご覧ください。

〈1. 自動発光モード〉“⚡AUTO”

暗いところの撮影で、シャッタースピードが1/60秒より遅くなる明るさのときは、自動的にストロボ撮影になります。
この時シャッタースピードは1/60秒になります。

●ストロボが発光するときはファインダー内の“⚡”が点灯します。

〈2. 赤目軽減自動発光モード〉“⚡AUTO👁”

暗いところで人物をストロボ撮影すると、まれに瞳が赤く写る（赤目現象）ことがあります。この赤目現象を軽減させる撮影方法です。
このモードではストロボが約0.7秒間隔で2回発光し、2回目の発光のときシャッターが切れます。
1回目と2回目の間にセルフタイマーＬＥＤが点滅します。1回目の発光後カメラを動かしたり、人物が動かないように注意してください。

〈3. 発光禁止モード〉“⊘⚡”

夕暮れや室内のムードを活かした写真を撮るなど、ストロボを発光させずに撮影したいときはこのモードにセットしてください。被写体の明るさに露出を決定しますので自然な感じの写真が撮れます。

●暗いときは遅いシャッタースピードになります。カメラぶれ防止のため三脚をご使用ください。
●このモードのときは、暗くても“⚡”は表示しません。

〈4. 強制発光モード〉“  ”

常にストロボを発光させるモードです。
屋外の撮影時に、たとえば強い日差しの下や逆光下でそのまま人物を撮影すると、人物は暗くなりがちです。このようなときは、強制発光モードにすると人物も背景もきれいに描写することができます。（日中シンクロ撮影）

●適正なシャッタースピードが1/60秒以下のときは、シャッタースピードは 1/60 秒にセットされます。

〈5. 夜景ポートレートモード〉“  ”

赤目軽減自動発光モードの機能に加えて、暗いところでは背景の明るさに応じてシャッタースピードが遅くなります。（スローシンクロ撮影）
人物を撮るなどのときに、夕景や夜景など暗いところでバックの情景も活かした撮影を行うときはこのモードにセットしてください。人物も夕景もきれいに描写することができます。

●スローシンクロ撮影ではシャッタースピードが遅くなりますので、カメラぶれ防止のために三脚をご使用ください。

逆光ストロボ自動発光

このカメラは自動発光モード、赤目軽減自動発光モードおよび夜景ポートレートモードのとき、画面中央に被写体がある逆光下での撮影では、被写体がきれいに写るように明るさによって自動的にストロボが発光することがあります。

●ストロボが発光するときはファインダー内の"ϟ"が点灯します。

ストロボ撮影を多用される場合には撮影範囲の広いISO400フィルムのご使用をおすすめします。(P44参照)

ストロボ撮影時のご注意

●ファインダー内"ϟ"の表示は次のお知らせです。

点灯：ストロボが発光します。／ストロボ撮影距離範囲内です。（シャッターボタン半押し時）

遅い点滅(2回／秒):ストロボ充電中。

速い点滅（4回／秒）:ストロボ撮影距離範囲外警告です。(シャッターボタン半押し時）被写体が近すぎる場合は露出オーバーに、遠すぎる場合は露出アンダーになります。P44の表を参考に被写体との距離を変えるか絞りを変え、点灯になるようにして撮影してください。リバーサルフィルム使用時はさらに撮影距離範囲が狭くなりますので、次ページの『ストロボ撮影距離範囲』の範囲内で撮影してください。

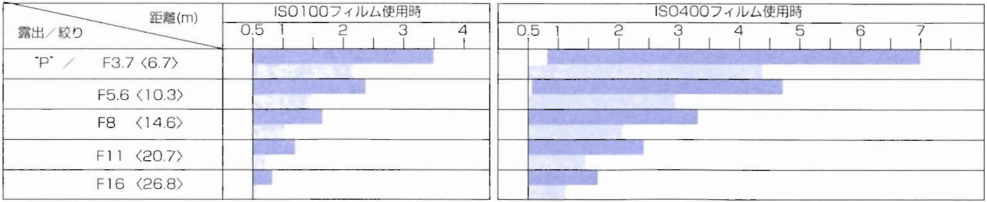
●"ϟ"が遅い点滅をしているときは、シャッターを切ることができません。

〈ストロボ撮影距離範囲〉

（リバーサルフィルム使用時）

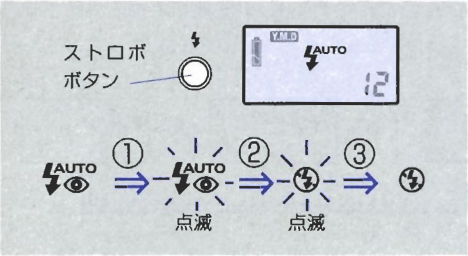
：30mm 時内蔵ストロボ撮影距離
：60mm 時内蔵ストロボ撮影距離

〈　〉は30mm(ワイド)時絞り値に対する60mm(テレ)時の実絞り値です。



絞り優先オート時は、撮影距離に応じてストロボの光量が変化します。プログラムオート"P"時は、撮影距離に応じて絞りが変わるフラッシュマチック方式になります。**ストロボ撮影のときは、"P"にセットすることをおすすめします。絞りを絞り込んでストロボ撮影すると、撮影距離が短くなります。またテレ側で撮影するときも撮影距離が短くなりますのでご注意ください。**

●内蔵ストロボの撮影距離範囲よりもさらに遠距離でのストロボ撮影を行いたい場合はCONTAX フラッシュアダプターSA-1（別売）を利用したクリップオンタイプの汎用ストロボのご使用をおすすめします。



〈ホームポジション〉

カメラ電源をONにしたときにセットされるストロボモード（ホームポジション）を変更することができます。

常用されるストロボモードにセットしておくと便利です。

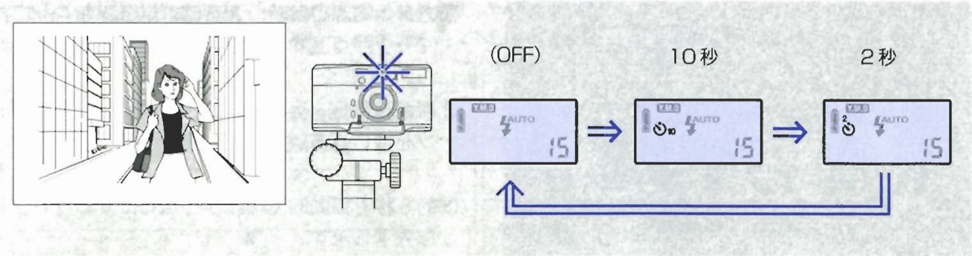
①カメラ電源ON時、ストロボボタンをストロボマークが点滅するまで押し続けます。（約2秒）

②点滅したら一旦ボタンから指を離し、再度ボタンを押して希望のモードを選びます。

③約8秒で自動的に点滅から点灯に変わりセットが完了します。

●シャッターボタン半押しまたは、カメラ電源OFFでもセットされます。

5、セルフタイマー撮影



セルフタイマー撮影は、10秒と2秒の2種類があります。記念撮影など、自分も一緒に写りたいときは"⏱10"（10秒）を、暗いところでの撮影などでのシャッター押し時のカメラぶれ防止には"⏱2"（2秒）を利用します。

①カメラを三脚などで固定します。

②カメラ電源をONにしてセルフタイマーボタンを押すと表示パネルの表示が"表示なし"（セルフタイマーOFF）→"⏱10"→"⏱2"に切り替わりますので希望の表示にします。

③シャッターボタンを半押しし、ファインダー内フォーカス表示の点灯を確認してからシャッターボタンを全押ししください。

セルフタイマーが作動し、１０秒または２秒後にシャッターが切れます。

- 撮影終了後は通常の撮影に切り替わります。
- セルフタイマーを途中で中止するときは、セルフタイマーボタンを押してください。
- セルフタイマー作動中フィルムカウンターは、シャッターが切れるまでの残り時間（秒）を示す表示になり、セルフタイマーLEDが点滅します。
- セルフタイマースタート時に露出とピントが固定されます。
- セルフタイマー作動中にシャッターボタンを押すと、セルフタイマー作動をやり直します。
- ストロボ充電中はセルフタイマーをスタートすることはできません。

〈連続セルフタイマー撮影〉

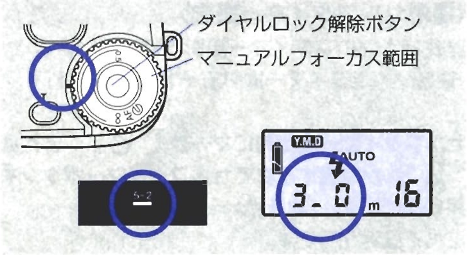
連続してセルフタイマー撮影を行いたいときは、"連続セルフタイマー撮影モード" にします。

セルフタイマー設定時にマーク（" 10 " または " 2 "）が点滅するまでセルフタイマーボタンを押し続けます。（約２秒）

これで設定完了です。

- カメラ電源をＯＦＦにすると連続セルフタイマー撮影は解除されます。

6、マニュアルフォーカス撮影



ピント位置を手動でセットすることができます。距離を固定しての定点撮影や、絞りを絞り込んで鮮明に写る範囲を広げての撮影などができます。

①ダイヤルロック解除ボタンを押しながら、メインスイッチ兼フォーカスダイヤルを回して“マニュアルフォーカス範囲（0.5〜∞）”にセットします。

②ダイヤルを回すと表示パネルに撮影距離（ピント位置）が表示されますので、希望の撮影距離をセットします。

- 撮影距離は、フォーカスダイヤルを動かしている間表示され、ダイヤル停止後約2秒間表示して消えます。
- セットした撮影距離はシャッターボタン半押しで約2秒間表示されます。
- ファインダー内にはセットした撮影距離に合わせてフォーカス表示が点灯します。
- 次ページの被写界深度表（鮮明に写る範囲）を参考に撮影距離をセットしてください。

③被写体の大きさと構図を決めてシャッターボタンを押します。セットした撮影距離にピントを合わせ、シャッターが切れます。

〈被写界深度表〉（単位・m）：セットした撮影距離と絞りに対しての鮮明に写る範囲です。

	30mm（ワイド）時			60mm（テレ）時		
絞り値（）は実絞り値	3.7	8	16	3.7 (6.7)	8 (14.6)	16 (26.8)
撮影距離(m)						
0.5	0.48 ~ 0.52	0.45 ~ 0.56	0.41 ~ 0.65	0.49 ~ 0.51	0.48 ~ 0.53	0.46 ~ 0.55
0.7	0.64 ~ 0.75	0.61 ~ 0.84	0.53 ~ 1.06	0.68 ~ 0.72	0.65 ~ 0.76	0.61 ~ 0.83
1.0	0.90 ~ 1.13	0.81 ~ 1.33	0.68 ~ 2.03	0.95 ~ 1.06	0.89 ~ 1.14	0.82 ~ 1.31
1.5	1.28 ~ 1.83	1.09 ~ 2.44	0.86 ~ 7.0	1.38 ~ 1.65	1.26 ~ 1.88	1.11 ~ 2.39
2.0	1.62 ~ 2.64	1.33 ~ 4.2	1.00 ~ ∞	1.78 ~ 2.29	1.58 ~ 2.76	1.35 ~ 4.0
3.0	2.20 ~ 4.7	1.69 ~ 14.9	1.19 ~ ∞	2.51 ~ 3.7	2.12 ~ 5.2	1.72 ~ 13.7
5.0	3.1 ~ 13.4	2.17 ~ ∞	1.40 ~ ∞	3.8 ~ 7.5	2.94 ~ 17.9	2.21 ~ ∞
10	4.5 ~ ∞	2.75 ~ ∞	1.61 ~ ∞	6.0 ~ 31.6	4.2 ~ ∞	2.80 ~ ∞
∞	8.0 ~ ∞	3.8 ~ ∞	1.91 ~ ∞	14.6 ~ ∞	7.0 ~ ∞	3.9 ~ ∞

7、カスタム機能

このカメラには、次の表のように6項目の"カスタム機能"を搭載しています。お買い上げ時は標準的な機能（内容番号の標準設定"0"）にセットしてあります。（この取扱説明書では"0"の状態を説明しています。）カスタム機能を変更したい場合は"カスタム機能のセットのしかた"(P52)をご覧ください。

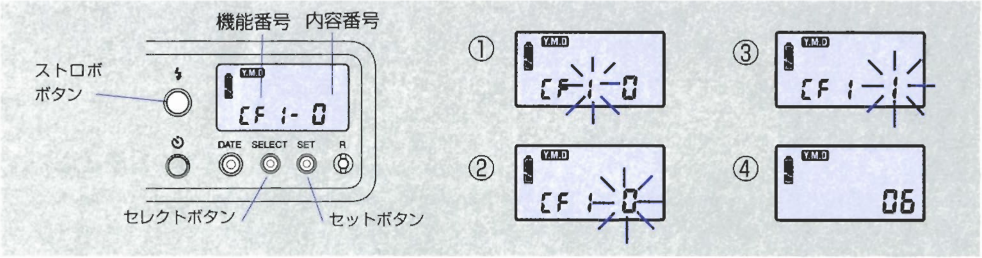
●カスタム機能をセットするとカメラの機能や操作手順が変わります。このページをよくお読みいただき、正しくご使用ください。

〈カスタム機能一覧表〉

内容番号 / 機能番号	標準設定 (0)	変更設定 (1)	変更設定 (2)
CF 1：フィルム巻き戻し時のフィルム残り	フィルムをパトローネ内にすべて巻き込む。	フィルム先端をパトローネの外に残す。	
CF 2:レンズ繰り出し時期	シャッターが切れる直前	シャッターボタン半押し時	
CF 3：オートフォーカスの測距範囲（＊）	プログラムオート時：マルチ 絞り優先オート時：マルチ	プログラムオート時：スポット 絞り優先オート時：スポット	プログラムオート時:マルチ 絞り優先オート時：スポット

機能番号 ＼ 内容番号	標準設定 (0)	変更設定 (1)	変更設定 (2)
CF 4：カメラ電源ON時の露出モードとレンズの繰り出し位置	露出モード：P（プログラムオート） レンズ位置：ワイド端	露出モード：カメラ電源OFF直前の設定と同じ レンズ位置：カメラ電源OFF直前のズーム位置と同じ	
CF 5：マニュアルフォーカスの距離設定	フォーカスダイヤルを回して設定	セットボタンを押しながら、フォーカスダイヤルを回して設定。	
CF 6:露出補正幅	1/3EV（表示例：＋0.3）	1/2EV（表示例：＋0.5）	

（＊）オートフォーカス測距範囲の詳細はP53をご覧ください。



〈カスタム機能のセットのしかた〉

①カメラ電源を“ＯＦＦ”にし、ストロボボタンとセットボタンを、“カスタム機能切り替えモード”が表示されるまで同時に押し続けます。(２秒以上)

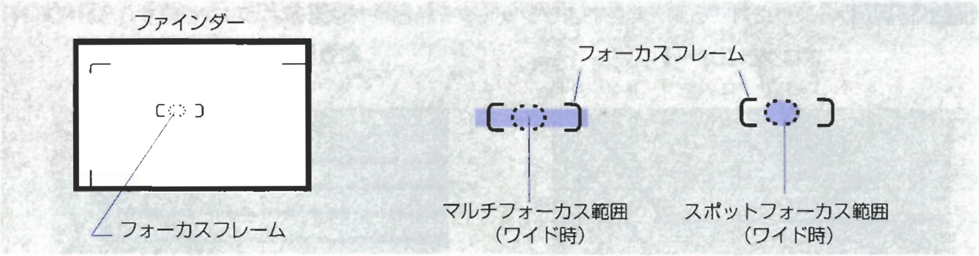
②セレクトボタンを押して“機能番号”または“内容番号”を点滅させます。

③セットボタンを押して希望の数字に変えます。

④そのまま８秒間放置すると、通常表示に戻り、カスタム機能がセットされます。

●点滅中にメインスイッチを“ＡＦ”にしても、カスタム機能がセットされます。

●カスタム機能設定中でも８秒間放置すると、設定中の内容でカスタム機能がセットされます。



〈フォーカス範囲〉

このカメラにはオートフォーカス時のピント合わせに2種類のフォーカス範囲が用意されております。

プログラムオート時：マルチフォーカス
絞り優先オート時　：マルチフォーカス

①マルチフォーカス

被写体がフォーカスフレームから多少はずれていてもピント合わせができます。

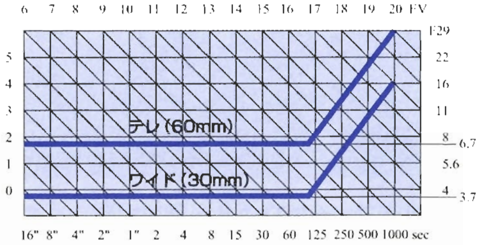
②スポットフォーカス

特定の部分にピントを合わせたいときに便利です。

フォーカス範囲の設定を変えるにはカスタム機能で行います。詳しくはP50をご覧ください。

〈露出制御図〉各絞りに対する測光範囲およびシャッタースピードは図のようになります。(ISO100時)

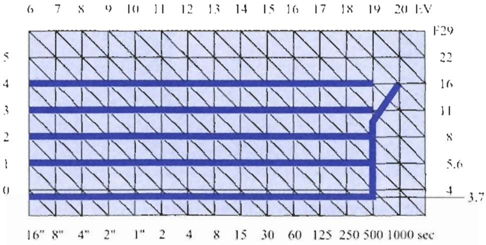
プログラムオート



室内や夜景などの暗い被写体や、ストロボを必要とする被写体では、"P" にするか絞りをF3.7にして撮影することをおすすめします。

●絞り値はズーミングに連動して変化します。(P37参照)

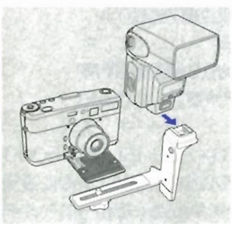
絞り優先オート（ワイド時）



焦点距離が30mmのとき、開放では画面周辺の光量低下がみられます。F5.6以上に絞り込んで撮影すると周辺光量の低下が目立たなくなります。

●カメラの測光機能はズーミングによる絞り値の変化に連動して正常に作動します。

〈CONTAXフラッシュアダプターSA-1〉



クリップオンタイプの外部調光式汎用ストロボを、コードレスで接続して使用するためのアダプターです。内蔵ストロボではストロボ光が届かない距離で使用します。

□CONTAX TvsⅢに使用するとき

外部測光式オート機能のあるストロボ、またはマニュアルストロボを使用してください。
外部測光式オートの場合は、使用するストロボの調光絞り値に合わせてカメラの絞り値をセットしてください。
カメラを"P"にセットしたときは、内蔵ストロボの撮影距離を越える場合、絞り値は30mm時F3.7、60mm時F6.7になります。

マニュアルストロボの場合は、次の式に従って適正露出になるように撮影距離を算出しその距離を越えないように撮影してください。

$$\text{撮影距離 (m)} = \frac{\text{ガイドナンバー}}{\text{絞り値}} \quad \text{(ISO 100時)}$$

（ガイドナンバーは取り付けたストロボの取扱説明書をご覧ください。）
カメラを内蔵ストロボが発光するモードにセットし、取り付けたストロボおよび内蔵ストロボの充電完了を確認してからシャッターボタンを押して撮影してください。

- ●赤目軽減自動発光モードおよび夜景ポートレートモードでは使用できません。
- ●カメラの裏ぶたを開けたときに当たらない位置に取り付けてください。

〈CONTAX TvsⅢ　セミハードケース CC-77〉

CONTAX TvsⅢを収納する速写タイプの牛革製ケースです。

〈CONTAX TvsⅢ デラックスストラップ〉

CONTAX TvsⅢ用デラックスストラップです。

主な仕様

型式　：35mmズームレンズ内蔵全自動レンズシャッター式ＡＦカメラ

画面サイズ：24×36mm

レンズ　：カールツァイスバリオゾナーＴ＊30～60mmF3.7～6.7（5群6枚）

絞り　：F3.7～16（f＝30mm）

撮影範囲：0.5m～∞

シャッター：ダブルビトウィーン式レンズシャッター

シャッタースピード：16秒～1/1000秒（絞り開放時最速1/500秒）

露出制御：プログラムAE、絞り優先AE

露出連動範囲：EV０～EV18

測光方式：２分割外部測光方式(SPD素子使用)

露出補正：±2EV（1/3ステップ）、（1/2ステップ切替可）

フィルム感度：自動セット（DX方式）ISO25～5000に連動、DXフィルム以外はISO 100に設定

ピント合わせ：フォーカスダイヤルによるオートフォーカス、マニュアルフォーカス切替式

測距方式：外部パッシブ方式、AF補助光、フォーカスロック機構付

ファインダー型式：実像式ズームファインダー、倍率および視野率··0.42～0.76倍　83%(3m)
ファインダー内表示：撮影範囲枠、近距離撮影範囲枠、フォーカスフレーム、シャッタースピード、露出補正マーク、フォーカス距離表示、ストロボマーク

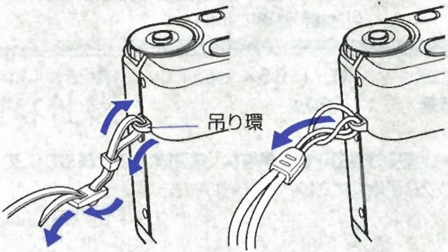
視度調整：視度調整機構内蔵、調整範囲＋2D～－3.5D
表示パネル：スポットオートフォーカス表示、電池残量表示、セルフタイマー表示（10秒または2秒）、フィルムカウンター／日付・時刻／露出補正値／設定距離／セルフタイマーカウンター／カスタムファンクションの各表示、ストロボモード（自動発光、赤目軽減自動発光、強制発光、発光禁止、夜景ポートレート）、デートマーク
フィルム装填：オートローディング式、（自動空送り機構付）
フィルム巻き上げ：自動巻き上げ
フィルム巻き戻し：オートリターン／オートストップ機構、途中巻き戻し可能
フィルムカウンター：表示パネルに表示、自動復元順算式
セルフタイマー：電子式、作動時間10秒と2秒、途中解除可
ストロボ：内蔵式ズームストロボ・フラッシュマチックおよびガイドナンバー制御式ストロボ
撮影距離：P44をご覧ください。
充電時間：約6秒（常温、新品電池使用、当社撮影基準による）
カスタム機能：・フィルム巻き戻し時のフィルム残り　・レンズの繰り出し時期　・オートフォーカスの測距範囲　・カメラ電源ON時の露出モードとレンズの繰り出し位置　・マニュアルフォーカスの距離設定　・露出補正幅
裏ぶた：裏ぶた開放ノブによる開閉式
電池：3Vリチウム電池（CR123AまたはDL123A）
1本、50%ストロボ使用で24枚撮りフィルム約7本撮影可能（常温、新品電池使用、当社撮影基準による）
写し込み機能：日付・時刻の写し込み。
寸法：（幅）116.5×（高さ）64×（奥行き）40mm
質量：320g

＊仕様・外観の一部を予告なく変更することがありますのでご了承ください。

ストラップの取り付けかたとカメラケース

ストラップ（付属品）

ストラップは図のように取り付けてください。
（ハンドストラップとショルダーストラップの
2種類付属）



カメラケース（付属品、牛革製）

脱落防止ホックが左右にあります。ハンドストラップ使用時にはシャッター側のホックを、ショルダーストラップ使用時にはストロボ側のホックをご使用ください。

